



# はじめに

本書は著者が試してみたいと思うことをリストすることのみを目的とした文書である。

# 目次

はじめに	i
目次	i
<b>1 ステ이블コインのようなもの</b>	<b>1</b>
1.1 目標	1
1.2 状況	1
1.3 ためしてみたい解決策	1
1.4 心配なところ	2

# Chapter 1

## ステーブルコインのようなもの

まずブロックチェーンに何か1つは価値のあるトークンがありスマートコントラクトが実装されている状況を前提として、それ以外の便利なものは一旦前提としない。

### 1.1 目標

ステーブルコイン、すなわちトークンの価値が法定通貨と概ね連動すればよい。ただ今回は一旦本当のやりたいことを含むようにより広い範疇で「ブロックチェーンの外にあるものの価値と概ね連動するトークンを中央の管理者なしに実現すること」を実際の目標とする。

### 1.2 状況

ブロックチェーンで流通するトークン🍎を裏付けとして、ある価値🍎と連動したトークン🍌を発行したい。

### 1.3 ためしてみたい解決策

次のようなスマートコントラクトを考える：

1. ガバナンス又はハードコードによって  $0 < L$  なる  $L$  を決める。
2. 参加者は🍎 $n$ この  $L$  倍の価値を超える数量の🍌をスマートコントラクトに預けて、 $n$ この🍌と、このポジションを表現するトークン鑄造してもらう。
  - (a) このとき鑄造してもらったものを返してburnしてもらうことで預けた🍌を全部返してもらえる

3. スマートコントラクトは🍎と🍌をAMMかオーダーブックなどのうち、なにかいい方法で売買する機能もつけておく
4. 最後取引された価格で、損しているポジションがあれば、ポジションを強制決済する。
  - (a) このときポジションを表現するトークンはburnされる

## 1.4 心配なところ

流動性不足が圧倒的に心配である。また連動するかというところも心配である。